

平成30年度 清原中央小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

児童の心身の発達にふさわしい教育を推進し、豊かな思考力・判断力・表現力を培い、心の教育を重視しながら、強靱な気力・体力と思いやりのある心や自主的な精神に満ちた実践力を身につけ、自らの向上とよりよい社会の発展に貢献しようとする、心豊かでたくましく生きようとする人間を育成する。

◇ 具体目標（めざす児童像）◇

- 1 自ら学び工夫する子ども （考える）
- 2 元気でがんばる子ども （鍛える）
- 3 礼儀正しく思いやりのある子ども （思いやる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」

心豊かでたくましい子どもの育成には、子どもが生き生きと楽しく学習や活動に取り組む、明るく活気ある学校づくりが重要である。そのために「子どもが楽しく学び、居がいをを感じる学校」「教職員が特性を生かして、指導力を発揮する学校」「保護者・地域から信頼される、魅力ある学校」を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が学校教育目標の共通理解に努め、調和の取れた教育活動を展開し、合言葉や具体目標の重点化を通して、教育目標の具現化に努める。

(1) 「児童が学校の主体である」ことを基底にするとともに、一人一人が清原中央小学校の職員であることの誇りを持ち、常に向上心をもって意欲的に勤務し、互いが切磋琢磨しながら公務員及び教師としての資質や指導力の向上に努める。また、働き方改革の理念を踏まえた取組も推進する。

○(2) 職員一人一人が率先垂範の精神で児童の教育にあたり、その姿勢を通して児童に学ぶ意欲や思いやりの心を育てる。

(3) 一人一人の児童に確かな学力をつけ、個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。

(4) 職員一人一人が組織の一員としての自覚を持ち、一致協力してより良い児童を育てる。

(5) 保護者や地域社会、各種団体との連携を密にし、地域の教育力を生かし、地域に開かれた信頼される学校にする。

(6) 地域学校園として共通理解のもと、各小中学校と連携しながら、小中一貫教育を推進する。

〔清原地域学校園教育ビジョン〕

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて、主体的に取り組む児童生徒の育成
～キャリア教育を核として～

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・基礎的・基本的事項の指導の充実と教職員の資質・指導力の向上
- ・勤務時間を意識した働き方の推進及び校内の業務の適正化

【学 習 指 導】

- ・自分の考えをもち、豊かに表現する児童の育成 ～「読むこと」の国語の授業を通して～

【児 童 生 徒 指 導】

- 思いやりの心をもち、積極的に友達に関わり合える児童の育成（思いやり・親切）

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自らの健康・体力の向上に関心をもち、生涯に渡って体力づくりをしようとする児童の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答90%以上	① 「<u>夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小</u>」の合言葉の浸透を図り、<u>活気のある学校づくりを進める。</u> ② 農園活動・共遊・児童会集会活動縦割り班活動等を工夫、改善しながら、児童が生き生きと活動する教育活動を展開する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は、92.％であり、指標の90％を上回っている。 ・①については、合言葉を昇降口や廊下や玄関等に掲示したり学校・学年便りに掲載したりすることにより、児童・保護者への浸透を図った。また、夢プロジェクトとして「ドッジボール大会」や「長縄大会」「そうじコンクール」「アルミ缶回収」「夢プロ認定証」「みんなで遊ぼう」等を実施した。 ・②については、OB会や保護者に協力をあおいだり農園係や児童会担当が創意工夫したりして、児童が生き生きと活動できるよう努めた。 【次年度の方針】 ・①については、引き続き掲示物や学校だより集会で合言葉をアピールしたり、学級ごとに夢プロの認定証を渡す場を設けたりするとともに、児童が主体的に活躍する機会を増やしていく。 ・②については、今後も縦割り班活動の活性化に向けて、高学年を中心に遊びの提案や縦割り班での活動の充実を図る。

A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 全職員共通理解のもと、保護者や地域、清原地域学校園と連携協力しながら、あいさつ指導など基本的な生活習慣を身に付けるための取組を進める。 ○②学習内容定着度調査等の結果を踏まえ、学校課題研修や一人一授業の実践を通して指導内容や指導方法の工夫改善を行う。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、98.24%であり、指標の90%を上回っている。 ・①については、清原地域学校園で連携し中学生と一緒にあいさつ運動を実施したり、各学級での話し合いをもとにしたあいさつの実践化に取り組んだりした。また、生活目標を生活委員会の児童が朝会時などに呼び掛けたり、折り鶴プロジェクトで廊下の歩行を呼び掛けたりして、基本的な生活習慣の徹底に努めた。 ・②については、一人一授業や積極的な授業公開・授業研究会・板書の見せ合い等を通して、指導内容や指導方法の工夫改善について意見交換を行った。 【次年度の方針】 ・①については、あいさつだけでなく廊下の歩行や言葉遣い等、基本的な生活習慣を身に付けられるように、保護者や地域、清原地域学校園と連携協力しながら進めていく。 ・②については、全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 「清原っ子の約束」等、学習のきまりをもとに学校や家庭での学習の仕方の指導を徹底するとともに、よくできたことについては積極的に賞賛し、児童の意欲を喚起する。 ② 週の生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、学年便り等に月目標を載せ、保護者の協力を得る。また、生活目標が形骸化しないよう、朝の打合せや校内放送を利用して、より意識化できるよう努める。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 90.4%で、指標の80%を上回った。 ・①については、学習や生活のきまりを基に、共通理解を図りながら指導の徹底を図った。 ・②については、週の生活目標を基に、生活委員会の活動を生かして意識付けを図った。 【次年度の方針】 ・①学習や生活のきまりを定期的に振り返りながら、児童の実態を捉えるとともに、学年に応じて重点的に指導する。 ・②生活委員会を中心として、児童の主体的な活動を取り入れながら、生活目標の周知と定着を一層図っていく。

A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	○①校内で授業の進め方、板書の仕方等の共通理解と共通実践に基づき、日々の授業の充実を図るとともに朝の「学習タイム」を活用し、課題の質・量・手立て等を工夫しながら、基礎学力を確実に定着させる。 ○②少人数指導や特別支援教育担当と共通理解を深め、個に応じた指導の充実がより一層図れるよう、児童に係る教職員間の情報交換を密にしながら学習指導を進めていく。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 96.2%と、指標の 90%を上回った。 ①について、朝の学習を国語・算数に指定したことにより基礎学力の定着に効果を挙げている。各クラスで継続的な学習プリントやドリル等の実施が定着してきたことにより児童の意識が高まっている。 ②について、少人数指導や個に応じた指導、特別支援学級、日本語指導、かがやきルームの対応等により効果が見られた。 【次年度の方針】 ①について、朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、見通しを立てる。 ②について、少人数指導や特別支援教育担当、学級担任等の間で共通理解を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① いじめ等対策委員会を設置し、組織的に対応する。 ② いじめゼロ強調月間を効果的に活用するとともに、いじめの実態把握、早期発見・対応のため、生活アンケートや定期教育相談を年 2 回実施する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 97.5%で、指標の 90%を上回った。 ・①いじめの実態に応じて、関係職員で連携を図りながら組織的な対応に努めた。 ・②いじめゼロ強化月間を通して啓発に努めるとともに、アンケートや教育相談を生かして早期発見・解決に努めた。 【次年度の方針】 ・①いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に対応できるように報告・連絡・相談の機能を充実させる。 ・②いじめゼロ強調月間における児童の主体的な活動を推進するとともに、学校での取組を保護者に伝えて連携・協力を図っていく。

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】 全体アンケート「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 清原地域学校園内で共通理解を図り、土曜日や夏季休業日の授業実施、及び時間割の工夫で、授業時数を確保する。 ② 児童数の増加に伴い活動に制限があるが、可能な限り学校行事、各教科、総合的な学習の時間、道徳等に体験的な活動を取り入れ、計画的に実施する。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、98%であり、指標の90%を上回っている。 ・①については、夏季休業期間中に1日間、土曜授業を2日間実施することにより、時数を確保することができた。 ・②については、生活科や総合的な学習の時間・社会科において、地域の教育資源を生かした課題解決学習、体験活動を展開したり、地域人材を活用した授業を展開したりすることにより、活動の幅を広げることができた。 B 【次年度の方針】 ・①については、夏季休業中の授業日数を増加させることで、今後もゆとりある時間の中で子ども達の学力向上と豊かな体験活動が行えるよう時数の確保を図っていく。なお、夏季休業中の授業日数の増加に伴い、土曜授業を廃止する。また、保護者の負担軽減と時数確保のため、家庭訪問は家の確認のみとする。 ・②については、学校行事を年間を通してバランスよく配置するとともに、より一層児童が伸び伸びと活躍できるような指導・支援に努める。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 学校・家庭・地域が連携協力して取組が進められるよう、各種便り等を通して情報の提供を継続して進めていく。 ② 学校HPを定期的に更新し、学校の情報を積極的に公開・発信する。 ③ 学校自由参観日の実施や、学校施設（体育館）の地域団体等への積極的開放など、地域に開かれた学校づくりを進める。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、96.7%であり、指標の90%を上回っている。 ・①については、学校便りをはじめ各種便りを定期的に発行し、家庭や地域に情報提供を行った。 ・②については、HPの情報を定期的に情報を更新した。 ・③については、学校自由参観日2日間を土曜日に実施したり、PTA 行事の清央祭と同日に行ったり持久走大会日を昨年度より早め、自由参観日と離したりしたことにより、多くの保護者や地域住民の参加があった。 B 【次年度の方針】 ・①については、今後も連携協力して取り組みが進められるよう情報提供を継続していく。 ・②については、さらに、定期的な更新を継続していく。 ・③については、学校自由参観に実施する内容をさらに充実させたり、清央祭など保護者が自由に参観できる行事を設定したりすることにより、開かれた学校づくりに努める。

○A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒地域住民の肯定的回答90%以上	○①地域協議会を中心に、学校・家庭・地域が一体となって、児童の安全確保や健全育成の取組をさらに強化する。 ○②地域連携教員と地域コーディネーターの連携のもと、保護者・地域・企業等と連携・協力して、授業や学校行事における学校支援ボランティアの活用を進め、教育活動の充実を目指す。	【達成状況】 ・地域代表住民の肯定的回答は、95.5%であり、指標の90%を上回っている。 ・①については、安全ボランティアやPTA及び育成会と連携協力して、児童の登下校の安全確保を図るとともに、親子料理教室（船頭鍋作り）や親学講座を実施し健全育成に努めた。 ・②については、各学年とも保護者・地域・企業等と協力して、学校支援ボランティアを活用し、様々な充実した教育活動を進めることができた。 【次年度の方針】 ・①については、さらに学校・家庭・地域が一体となって、児童の安全確保や健全育成の取り組みを一層強化していく。 ・②については、さらなる教育活動の充実を目指し、保護者や地域と連携・協力したり、企業や市の施設等の様々な出前講座を利用したりするとともに、充実した教育活動が行われている様子を発信していく。
A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」⇒保護者の肯定的回答80%以上	① 施設を有効に活用し、教材教具の充実、適切な表示や管理に努めながら、学習意欲を高める環境を整える。 ② 清掃強化週間の実施や清掃用具の充実等、清掃指導を強化しながら、学習にふさわしい快適な環境づくりを進める。 ③ より一層本に親しみやすい図書室をめざし、継続して環境整備に努める。また、地域の歴史を素材とした資料の整備等、潤いのある環境づくりに取り組む。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、89.8%であり、指標の80%を上回っている。 ・①については、計画的な備品整理を行い、教材教具の充実・改善に努めた。 ・②については、縦割り班で清掃を実施した。また、清掃担当を中心に清掃用具の充実や管理体制・清掃指導の強化に努め、学習にふさわしい環境づくりを進めた。 ・③については、全教職員による新しい本の選択、児童が図書室に来たくなるようなイベント（読書週間等）を計画し実施した。また高学年の朝の時間の2日間貸出しを昨年度に継続して実施した。 【次年度の方針】 ・①については、学習環境の整備に努め、児童の発達段階にあった教材教具の充実を図るとともに、視聴覚機器を活用していく。 ・②については、来年度も年間3回縦割り班の編成をして班のメンバーや児童の分担や清掃の仕方等を見直す。また反省会のやり方をさらに工夫して、清掃指導を強化していく。 ・③については、PTA寄贈による図書や「清じーコーナー（清原地域学校園で取り組んでいる、各学年で読んで欲しい図書を揃えたコーナー）」、地域の歴史を素材とした資料の整備・充実にさらに努めることにより、より一層潤いのある環境づくりに努める。

B5 教職員は、児童の悩みや保護者の相談をよく聴き、対応している。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、児童の悩みや保護者の相談をよく聴き、対応している」⇒保護者の肯定的回答80%以上	① いじめ調査を定期的実施するとともに、年間2回の教育相談を行いいじめの防止・解消に努める。 ② 学校便り、学年便り等で学校・学年の実態や取組を積極的に発信し、保護者の理解・協力を得るとともに保護者からの相談に対しては関係者が連携して真摯に対応する。	達成状況】 ・保護者の肯定的回答は86.4%で、指標の80%を上回った。 ・①については、いじめ調査を基に児童の実態を把握して、日常的・定期的な教育相談を通していじめの防止・解消に努めた。 ・②については、いじめに関する取組を保護者に発信して、保護者の理解や協力を得ながら児童や保護者の不安解消に努めた。 【次年度の方針】 ・年4回のいじめアンケート（うち一回は無記名）を通して、児童の実態把握に一層努め、いじめ調査の後にすぐ定期教育相談を行うことで早期発見・解決を図る。 ・各種便りや学級懇談会、個人懇談等を通して、学校の実態や児童の実態について伝達しながら、保護者の理解や協力が得られるように働きかける。
A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した取組を行っている」⇒教職員と保護者の肯定的回答80%以上	① 中学生と一緒に年3回あいさつ運動を実施し、中学校と連携した児童生徒指導の取組を行う。 ② 小中乗り入れ授業を定期的実施し、情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。 ③ 学校園教育ビジョンの中核であるキャリア教育の積極的な推進を行う。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は95.3%で指標の80%を上回っている。また、保護者の肯定的回答は84.8%で、指標を上回っている。 ・①については年3回の地域学校園あいさつ運動を通して、中学生のあいさつをお手本にしながら意識付けを図った。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動を通して、中学校と連携を取りながらあいさつの習慣化を図るとともに、6年生に対して、中学校における生活のきまりを事前に伝達する機会をもつ。
A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 全体アンケート「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。」⇒教職員の肯定的回答80%以上	① 教員と学校スタッフが学習指導や児童指導に関する情報を共有しながら、教育の質の向上を目指す。 ② 「働き方改革プロジェクトチーム」を組織し、業務の軽減を目指した具体的な計画を立て、勤務時間の短縮を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は65.1%で、指標の80%を下回っている。 ・①については、職員会議後に児童指導上の共通理解の時間を設けたり、支援委員会を年に3回設けたり、ケース会議をその都度実施して児童指導に関する情報共有をしてきた。SCや通級職員とも連携を図ってきた。 ・②働き方改革プロジェクトチームを発足し、夏の研修でアンケートをとったり話し合いをしたりして改革案を出し合いすぐやれることは実施した。9月以後は4月から6月に比べ残業時間が大幅に減少した。 【次年度の方針】 ・①については引き続き専門性のある学校スタッフと情報を共有していく。 ・②については、今年度出した改善策を無理のないように実施して、教員の業務が縮減されるようにする。

教育活動の状況	生 活	A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 全体アンケート「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。」⇒教職員の肯定的回答80%以上	① かがやきルーム指導員、図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT等の学校スタッフが積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。 ② 学力の向上を目指して、授業前の打合せや、授業後の振り返りを密に取りながら円滑なコミュニケーションを図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は86.0%と、指標の80%を上回った。 ①について、連絡ノート等を利用し学級担任との情報交換を密に行ってきた。また、職員会議後に情報交換の場を設定し、情報を共有してきた。 ②について、自然な流れで授業の打ち合わせや振り返りが行われ、学力向上のための情報が共有されている。 【次年度の方針】 ・教職員の得意分野を知らせ、相談に乗りやすい環境を整える。
		B1 児童は、登下校中や学校の中で、安全に気をつけて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、登下校中や学校の中で、安全に気をつけて生活している」⇒教職員の肯定的回答80%以上	① 避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。 ② 全職員の共通理解のもと、登校班長会議や登下校指導、休み時間の生活指導を行い、事故を防ぐとともに、自ら安全に生活しようとする習慣を児童に十分身につけさせる。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は88.4%で、指標の80%を上回った。 ・①については、安全に関わる学校行事を通して、交通事故や災害に対する意識を高めて、危険を予測した対応について指導した。 ・②については、登下校の指導や休み時間の生活指導を通して、安全な生活について実態に応じて適時指導を行った。 【次年度の方針】 ・日常生活の中の危険について、職員や児童で共通理解を図りながら、事故を予防する取組を行う。(生活委員会の安全月間など) ・登下校指導を中心にして、児童の実態をよく把握して適宜指導を行うとともに、保護者や安全ボランティアと連携を図りながら安全を意識した行動を習慣化する。
		A13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒教職員の肯定的回答80%以上	① 常時指導を強化するとともに、児童主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。また、清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開する。 ② 教職員が率先してあいさつし、児童の手本となる。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は90.7%で、指標の80%を上回っている。 ・①については、あいさつ強化週間を通して、児童を主体とした啓発活動を行い、全校一斉にあいさつの定着を図った。 ・②については、児童の手本となるように教職員から率先してあいさつすることに努めた。 【次年度の方針】 ・あいさつ強化週間などを通して、継続的に意識付けを図っていくとともに、保護者や地域に学校の取組を積極的に発信して、連携・協力を輪を広げていく。

A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場合に応じた言葉づかいをしている」⇒教職員の肯定的回答80%以上	① 学級活動・朝の会等で、場に応じた気持ちの良い言葉づかいについて、学年・学級の実態に応じた指導を行う。 ② 授業中など改まった場や目上の人に対する正しい言葉づかいについて具体的に指導するとともに、日常の場面においても人を傷つける言葉や言い方を絶対にしないという指導を徹底する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は88.4%で、指標の80%を上回った。 ・①については、各学級において場に応じた言葉遣いについて適時指導しながら、実態に応じて意識の向上を図った。 ・②については、時と場に応じた言葉遣いを具体的に指導するとともに、必要に応じて相手の気持ちを考えさせる機会をもった。 【次年度の方針】 ・学級活動、道徳科の授業などを通して、時と場に応じた言葉遣いや相手の気持ちを考えた言葉遣いについて重点的に指導する。 ・年度初めにふわふわ言葉・ちくちく言葉について全学級で話し合い、ふわふわ言葉を教室に掲示することで継続的に意識づけを図る。
OB6 児童は、食後丁寧に歯磨きをしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分は、食後ていねいに歯磨きをしている」⇒児童の肯定的回答80%以上	① 年2回「キラキラウィーク」を実施し、児童の歯磨きに関する実態の把握と啓発を図る。 ② 歯科検診や保健便り等を活用し、歯磨きの啓発を図るとともに、治療が必要な児童へ受診を働きかける。 ③ 養護教諭が各クラスの歯磨きの様子を観察し、児童の実態を把握し、歯磨きの仕方について指導をする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は93.1%で、指標の80%を上回った。 ・①については、キラキラウィークの歯磨き項目を増やしたことにより、きめ細やかな歯磨きや、自分の歯の観察につながり、丁寧な歯磨きにつながった。 ・②については、歯科検診の結果を各家庭に報告したり、各種便りを活用したりして児童・保護者への受診を促すことに努めた。 【次年度の方針】 ○①年2回の「キラキラウィーク」を実施し、児童の歯磨きに関する実態の把握と啓発を図る。 ○②歯科検診や保健便り等を活用し、歯磨きの啓発を図るとともに、治療が必要な児童への受診を働きかける。 ○③健康・食育・保健の内容を含んだ「すくすく」を発信して、3つが関連していることに気づき、家庭でより高めて取り組もうとする意識を高める。 ○③給食後の歯磨きについて、安全面・衛生面に関して指導の仕方を統一していく。

	健康・体力 ○A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」⇒児童の肯定的回答85%以上	○①教科体育を中心として運動の楽しさや喜びを味わわせる授業を工夫し、児童が目標をもって体力向上に取り組めるよう指導する。 ○②体力チェック表（清原地域学校園）の活用や、元気っこチャレンジ（新体力テスト）に進んで取り組める場を設定し、休み時間の運動を推奨する。 ○③生活目標に取り上げたり教師とともに遊ぶ共遊を実施したりして、児童が休み時間に外遊びをしようとする意欲を高める。	B 【【達成状況】】 ・児童の肯定的回答は87.9%で、指標の85%を上回っている。 ・①については、各単元で導入運動集を用いて、導入運動を工夫したり、苦手種目に対して動作を補助する教具の積極的な活用をしたりして体力の向上に努めた。 ・②については、体力チェック表の活用を促したり、クラス対抗ドッジボール大会、長縄大会や持久走大会を利用した、業間や昼休みの運動を奨励したりして体力向上に努めた。 ・③については生活目標や地域学校園の約束を活用して外遊びをするように努めた。 ・③については、他学年と遊ぼう週間を実施し、異学年交流を含めた外遊びの機会を設けた。 【次年度の方針】 ○①教科体育を中心として運動の楽しさや喜びを味わわせる授業を工夫したり、運動領域ごとにまとめた導入運動集の活用をしたりするなど、児童が目標をもって体力向上に取り組めるよう指導する。 ○②体力チェック表の活用や、元気っこチャレンジに進んで取り組める場を設定し、休み時間の運動を推奨する。 ○③生活目標に取り上げたり、地域学校園の約束を活用したりして、児童が休み時間に外遊びをしようとする意欲を高める。 ○④健康・食育・保健の内容を含んだ「すくすく」を発信して、3つが関連していることに気づき、家庭でより高めて取り組もうとする意識を高める。
--	---	--	--

○A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」⇒教職員の肯定的回答90%以上	① 朝食をとらない児童・偏食の多い児童に対して、保健や家庭科等と関連付けて個別指導を行う。 ○②給食便り・保健便り等を活用したり、懇談会等で朝食の大切さや偏食を話題にしたりして、保護者への啓発を図る。また、啓発と再認識のために、年2回「朝食を食べよう週間」を設定する。 ③ 養護教諭や学校栄養士が各クラスと一緒に給食を摂り、児童の実態把握を行うとともに食に関する指導の充実を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は約93.0%で指標の90%を上回った。 ・①については、朝ごはん食べよう週間や担任からの声掛けを展開しながら個別指導に努めた。 ・②については、朝食食べよう週間や各種便りを活用して啓発を図った。 ・③については、学校栄養士と栄養教諭の給食時の巡回や直接的な声掛けで充実を図った。 【次年度の方針】 ○①朝食をとらない児童・偏食の多い児童に対して、保健や家庭科と関連付けて個別指導を行う。 ○②給食便り・保健便り等を活用したり、懇談会等で朝食の大切さや偏食を話題にしたりして、保護者への啓発を図る。また、啓発と再認識のために、年2回の「朝食を食べよう週間」を実施する。 ○③学校栄養士と養護教諭が給食時間に巡回したり、学校栄養士が児童と給食を摂ったり、残食の調査をしたりして、児童把握を行い、食に関する指導の充実を図る。 ○④健康・食育・保健の内容を含んだ「すくすく」を発信して、3つが関連していることに気づき、家庭でより高めて取り組もうとする意識を高める。
B3 児童は家庭学習の習慣が身についている。 【数値指標】 全体アンケート「自分の子どもは、家庭学習の習慣が身についている」⇒保護者の肯定的回答70%以上	① 「清原っ子の約束」を配布したり学年だよりを活用したりして、<u>家庭学習の重要性について保護者への啓発を図り、指導の効果を高める。</u> ② 学級活動で家庭学習の仕方を指導し、目安となる時間や内容を提示したり実践している児童を賞賛したりして、児童が家庭学習に取り組もうとする意欲を高める。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、67.1%と、指標の70%を下回った。 ・家庭学習の提出率は、児童の肯定的回答の85.8%程度で悪くはない。自主的に家庭学習に取り組めていない児童がいることで、前述の結果になったのではないと思われる。 【次年度の方針】 ①について、「家庭学習のすすめ」を参考に、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ②について、自主学習の振り返りを保護者に確認してもらう頻度を増やす。「カテ学ふりかえりウィーク」を設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。また、家庭学習の児童自身の振り返りを記入させる。

学 習 等	○A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	○①授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。 ○②複数の教職員が児童一人一人の頑張りやよさを積極的に褒めたり認めたりすることで、児童が自信を深め、意欲的に学習に取り組めるように支援する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は97.7%で、指標の85%を上回っている。 ①について、授業で本時のめあてをはっきりさせ、まとめ、ふりかえりまでの授業の流れをはっきりさせた。また、学習の内容や発達段階に応じてペア・グループ等の学習形態を工夫した。 ②について、学年内、出授業関係、少人数指導、かがやきルーム担当者などが連携をとり、様々な場面で児童のがんばりを認める言葉かけをした。また、学習情報システムを活用し、児童の頑張りを共有した。 【次年度の方針】 ①について、引き続き授業のねらいを明確にして児童に示したり、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に取り組めるよう支援する。 ②について、3年生以上は算数の少人数指導のクラスをローテーションして受け持つことで学年全体の児童の実態の把握を努める。低学年は、できる範囲で授業交換を行う。
	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 全職員の共通理解のもと、話の聞き方や発表の仕方、ノートの活用法等、学習訓練の充実に努める。特に、聞き方の指導を工夫し、普段の授業から児童の意識を高めていく。 ② 学校生活全体において、時間を守った落ち着いた行動がとれるよう、指導を強化していく。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、87.5%で指標の80%を上回っている。 ①について、各教室の「聞き方話し方あいいうえお」「発表の仕方」「声のものさし」を活用することで、話の聞き方がよくなっている。朝会や集会で話の聞き方が身に付いてきている。 ②について、チャイムの合図を守り、授業に落ち着いて取り組めるようになってきている。学習に対する心構えが育ってきている。 【次年度の方針】 ①聞く態度面が育っているので、さらに考えをもちながら聞かせたり、「発表の仕方」を活用したりして、発表する力を育てる。 ②引き続き学校生活全体で落ち着いた行動が取れるよう指導していく。

	A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」⇒児童、教職員の肯定的回答 80%以上	① 地域協議会や保護者のボランティアと連携しながら児童を育成する環境づくりを推進する。 ② 学校だよりや学年だより等で地域のボランティア活動の様子を紹介し、児童や保護者に情報を発信する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は86%で、児童の肯定的回答は85.9%で指標の80%を上回っている。 ・①については、育成会主催のチャレラン大会や地域協議会主催の親子料理教室（船頭鍋作り）地域の行事ミュージックフェスティバルに積極的に参加した。また、学校PTA主催の清央祭には6年生やダンスクラブやスポーツ少年団などが出場し、ほとんどの児童が参加した。地区ごとの夏祭りや体育祭も盛んで多くの児童が参加した。 ・②については、学校だよりなどを通して地域の行事の様子を紹介してきた。 【次年度の方針】 ・①については、今年度と同様に地域協議会や保護者のボランティアやPTA役員と連携していく。 ・②については、引き続き学校だよりやホームページ等で地域の行事等での活動を紹介して児童や保護者に発信していく。
本校の特色・課題等	B2 児童は進んで読書をしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分は、進んで読書している」⇒児童の肯定的回答80%以上	① 朝の読書タイムには、5分前に読書の準備を完了し、児童が落ち着いて読書に取り組める環境づくりを進める。 ② 学校図書館司書と連携し、各教科の調べ学習において、学校図書館の積極的な活用を図る。 ③ 読んだ本についての記録を累積し読書意欲の向上を図る。また、懇談会や図書館だより等を通して保護者への啓発を強化するとともに、家庭読書の記録を複数回行い、家庭読書の充実を図る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は82.6%で、指標の80%を上回った。 ①について、開始時間前に読む本を準備して読書タイムを迎えていた。 ②について、学校図書館司書の協力を得て、学校図書館や市立図書館から授業に必要な資料や図書を準備し、充実した調べ学習ができた。 ③について、読んだ本についての記録を累積したり図書館だよりや懇談会で保護者に啓発したりした。図書委員会の児童の様々な活動を通して、図書室に足を運ぶ児童が増えた。多読者の貸し出しカードを金・銀にしたことにより意欲が高まった。 【次年度の方針】 ①について、読書タイムの15分間は出歩かないで集中して読むことを徹底させる。 ②について、継続して行う。 ③について、学級文庫の入れ替えを定期的に行うことで読書意欲の向上を図る。懇談会で繰り返し家庭での読書を薦める話題を取り上げる。読書週間に「家庭読書の記録」を実施するなどの工夫を継続して行う。

○B4 児童は、友達や下級生に思いやりがある。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、友達や下級生に思いやりがある」⇒児童の肯定的回答85%以上	○①清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を積極的に取り入れ、上級生が下級生の面倒をみる場を設定する。 ○②道徳科を中心に、思いやりのある豊かな心の育成を図り、成果を全教育活動に広げていく。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は89.5%で、指標の85%を上回った。 ・①については、縦割り班活動を通して、上級生が下級生の面倒を見る機会を確保した。 ・②道徳科を通して、思いやりのある豊かな心の育成に努めた。 【次年度の方針】 ・共遊などの縦割り班活動を通して、思いやりのある言動をよく見取り、よさを認めて広げていく。 ・道徳科を中心として、相手の気持ちを考えた言動を重点的に指導して、日常生活での実践化を図る。
---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・学校、地域、PTA、各諸団体が連携、協力しながら教育活動に取り組んだ結果、学校評価アンケートの肯定的な評価が、昨年度に比較し全体的に高くなっている。特に「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいるか」の肯定的評価は、保護者が14.1ポイント、地域は11.6ポイントの増であり、教職員がいじめ対策に積極的に取り組んだ成果だと考える。

・「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。」について、教職員の肯定的回答は65.1%で、指標の80%を下回っている。児童指導に関してケース会議を実施したりSCや通級職員と連携を図ったりしながら取り組んできたものの、専門性を有する学校スタッフの周知が十分でなかったことが要因と考えられる。このため今年度立ち上がった「働き方改革プロジェクトチーム」の推進と、専門性を有するスタッフへの理解促進と情報共有をしながら業務の負担軽減に繋がる取組をしていきたい。

○「児童が進んで時と場に応じたあいさつや言葉遣いをしているか」の肯定的回答が、昨年度よりも若干低くなっているの

で、地域学校園での検討を通して、来年度にさらに強化していきたい。

6 学校関係者評価

・挨拶や言葉遣いについては、家庭での言葉遣いについて気を配ってほしい。何度も何度も働きかけ、保護者や地域の大人たちが働きかける必要がある。

・地域協議会でも引き続き各種サポートに協力をしていきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○児童の時と場に応じた挨拶や言葉遣いについて、学校・家庭・保護者・地域が一体となった取組を重視する。

○家庭学習の習慣化を図るため、「家庭学習のすすめ」を参考に、低学年から自主学習に取り組ませたり、自主学習の振り返りを保護者に確認してもらう頻度を増やしたりする。また、「カテ学ふりかえりウィーク」を設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていくとともに、家庭学習の児童自身の振り返りを記入させ強化していく。

・教員の業務縮減に向けて、働き方改革プロジェクトチームを発足し、夏の研修でアンケートをとったり話をしたりして改革案を出し合い、すぐやれることを実施した。その結果、9月以後は4月から6月に比べ残業時間が大幅に減少した。今年度の取組について検討し、継続するもの廃止するものを見極めながら来年度に繋げたい。